

原木及び木材製品の流通に関する見通し調査(平成30年9月実施分)

1. 調査対象 道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m3以上の製材工場及び合板工場(調査対象工場数:109)
2. 調査実施時期 平成30年9月
3. 調査の内容 (原料在庫状況)前年同時期と比べた認識について選択式(「多い」「少ない」「変わらない」)により調査
(製品の荷動き)前年同時期と比べた認識について選択式(「良い」「悪い」「変わらない」)により調査

4. 企業判断指数の算出方法

[(回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率(%)) - (回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率(%))]
(最大値100/最小値-100)

5. 調査結果(回答工場数:101社 / 回答率:92.7%)

【①原料在庫状況(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12	H31.1-3
H29.12	-42	<i>-42</i>	<i>-47</i>	-	-	-
H30.3	-	-27	<i>-39</i>	<i>-43</i>	-	-
H30.6	-	-	-26	<i>-29</i>	<i>-30</i>	-
H30.9	-	-	-	-38	<i>-34</i>	<i>-35</i>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12	H31.1-3
当年	128,115	166,125	165,671	-	-	-
(前年)	137,052	163,819	163,061	145,319	128,115	166,125
対前年比	93%	101%	102%	-	-	-

(概況)

原木在庫は前年比べて下回っており、依然として不足感があり、今後も引き続き前年を下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)

長雨で林道が悪化、原木の搬出が遅れた/造材力不足で原木集荷が困難/径級によって過不足、在庫減少/前年同時期が極端に少なかったため現状「多い」/地震の復旧作業の影響により作業員や機械の不足が不安

【②製品の荷動き(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12	H31.1-3
H29.12	9	<i>-1</i>	<i>-6</i>	-	-	-
H30.3	-	2	<i>-6</i>	<i>-2</i>	-	-
H30.6	-	-	<i>-7</i>	<i>-3</i>	<i>-9</i>	-
H30.9	-	-	-	-10	<i>-9</i>	<i>-19</i>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12	H31.1-3
当年	214,410	190,366	210,344	-	-	-
(前年)	203,086	188,783	218,172	216,811	214,410	190,366
対前年比	106%	101%	96%	-	-	-

(概況)

荷動きは若干前年を下回り、今後も下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)

需要・価格は横ばい/注文が若干少ない/現状は前年並みも今後の動きはきびしくなりそうだが/旺盛な状況/前年並みで動くと思われる/世界情勢から不透明

【③原料在庫状況(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12	H31.1-3
H29.12	-61	<i>-63</i>	<i>-59</i>	-	-	-
H30.3	-	-55	<i>-57</i>	<i>-57</i>	-	-
H30.6	-	-	-38	<i>-45</i>	<i>-43</i>	-
H30.9	-	-	-	-46	<i>-39</i>	<i>-47</i>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m3)

	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12	H31.1-3
当年	173,281	180,409	192,395	-	-	-
(前年)	203,646	231,761	239,167	220,462	173,281	180,409
対前年比	85%	78%	80%	-	-	-

(概況)

カラマツ原木在庫は、引き続き前年を下回り、今後も引き続き下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)

希望するサイズの丸太が入らない。特に小径木/価格が上がり、トドマツより厳しい状況/春先の不足感が解消し、在庫は復活基調/地震の影響により今後は不透明

【④製品の荷動き(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12	H31.1-3
H29.12	26	<i>20</i>	<i>6</i>	-	-	-
H30.3	-	4	<i>5</i>	<i>2</i>	-	-
H30.6	-	-	6	<i>0</i>	<i>-4</i>	-
H30.9	-	-	-	-8	<i>-10</i>	<i>-14</i>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m3)

	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12	H31.1-3
当年	309,295	286,973	312,613	-	-	-
(前年)	304,286	293,447	313,198	297,111	309,295	286,973
対前年比	102%	98%	100%	-	-	-

(概況)

荷動きは前年を若干下回る水準となっており、今後も下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)

引き合いは横ばい/昨年が良かったこともあり、不調/適材が不足しているが、注文は多い/製材の受注は昨年を上回っているが、原木調達に難しい/不調。今後もこの状態が続くと予測される